

## 山田 久教授のご退任記念号によせて

経済経営学部長 井出 健二郎

本号は、2018年3月末日でご退任される山田久教授が本学において研究ならびに教育に長年大変なご尽力をくださったことに敬意を表して、刊行する運びとなりました。

山田久教授は1972年3月立教大学社会学部産業関係学科を卒業後、立教大学大学院社会学研究科応用社会学専攻修士課程に進学されたのち、翌年9月シカゴ大学大学院経済学部に入学されました。そして1980年9月にデューク大学大学院に転入、1984年5月には同大学院でPh.D.を取得されました。

デューク大学大学院在学中には同大学院で「統計学」「計量経済学」「マクロ経済学」の非常勤講師として教鞭を執られ、1984年に帰国されてからは放送大学、筑波大学、成蹊大学で講義を担当されています。

和光大学には1987年4月経済学部経済学科に助教授として着任し、1992年には教授に昇格されます。主な担当科目は「統計学」「計量経済学」「マクロ経済学」で、理論経済学分野を担っていました。その成果として、2008年『入門ミクロ経済学』（実教出版）、2010年には『入門マクロ経済学』（実教出版）を、さらに2014年には高大連携を図った『これだけはおさえたい 経済学 学びのガイダンス』（実教出版）を執筆されました。

研究では「マクロ経済学と貨幣・金融理論」を主たるテーマとして論文を多数執筆されています。2000年にはモンペラン協会（the Mont Pelerin Society）の正式会員となられ、現代社会の技術にかかわる諸問題と自由市場、自由主義の関わりについて研究を深めてこられました。その集大成として、最終講義では「マネタリズムの盛衰と新自由主義の未来」の題目でお話しになり、改めて山田先生の鋭い洞察力と豊かな見識を認識した次第です。

学部学科の行政においては、1999年にカリキュラムの大幅な改革を行いました。その中心となったのが山田先生であり、先生なればこそその改革でありました。

山田先生の本学部におけるご献身とご尽力は書きつくせないものがあり、そのご貢献に心より感謝を申し上げたいと思います。最後になりますが、山田先生のさらなるご健勝とご活躍をお祈り申し上げます。

2018年3月